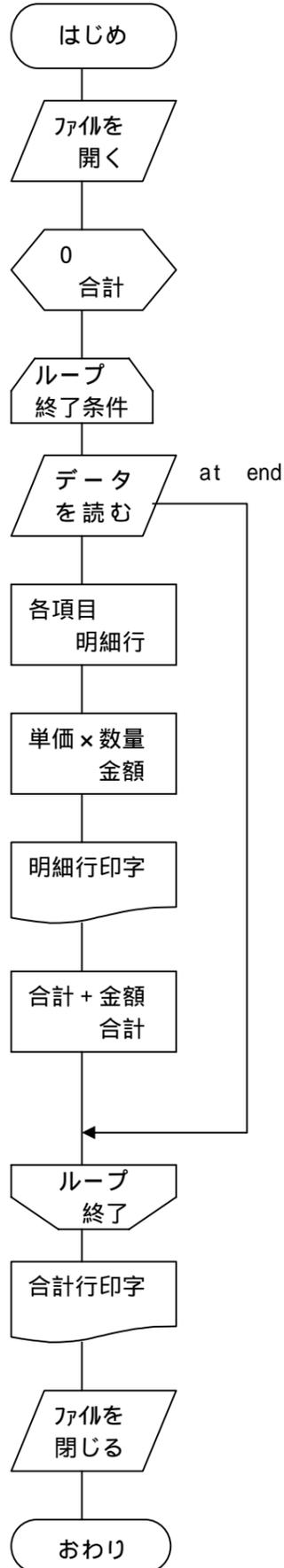


<集計の考え方>

項目全体の合計を出す時には、次のような方法を使って求めていきます。ここでは、教科書P33の例題を詳しく解説していきます。

集計をしたい項目を確認し、作業領域 (working-storage section) に記憶場所をあらかじめ作っておきます。



手続き部 (procedure division) の繰り返し処理に入る前に、作業領域で作った合計用の記憶場所に0を記憶させます。

繰り返し処理に入ってから0にすると合計を正しく求めることができなくなってしまいます。

「move文」で0を設定するだけでなく、の時に「value 0」を使って設定することもできます。

データを1件ずつ読み込んでいきます。

読み込んだ各項目を明細行に転記します。

読み込んだ項目を使って、金額の計算をします。

転記が済んだ明細行を印字していきます。

作業領域に作った合計を求めるための記憶場所に で求めた金額を足していきます。



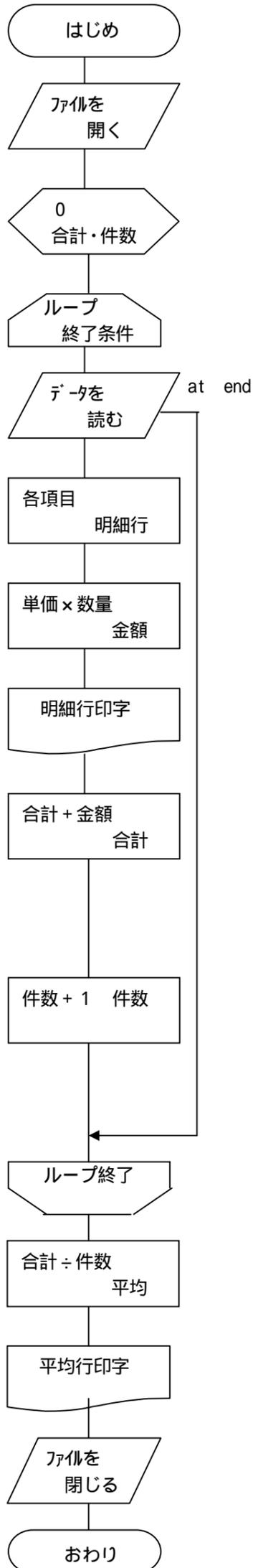
データを読み終えるまで ~ を繰り返して合計を求めていきます。

ループ内で計算した合計を印字します。

<平均の考え方>

項目の平均を出す時は、次のような方法を使って求めていきます。ここでは、教科書P36の例題を詳しく解説していきます。

平均を求めるために、合計と件数が必要です。作業領域 (working-storage section) にそれぞれの記憶場所をあらかじめ作っておきます。



手続き部 (procedure division) の繰り返し処理に入る前に、作業領域で作った合計用と件数用の記憶場所に初期値として0を記憶させます。

繰り返し処理に入ってから0にすると合計と件数を正確に求めることができなくなってしまいます。

「move文」で0を設定するだけでなく、の時に「value 0」を使って設定することもできます。

データを1件ずつ読み込んでいきます。

読み込んだ各項目を明細行に転記します。

読み込んだ項目を使って、金額の計算をします。

転記が済んだ明細行を印字していきます。

作業領域に作った合計を求めるための記憶場所に、求めた金額を足していきます。



レコードの件数をカウントするために、1件読んだら1ずつ増やしていきます。



データを読み終えるまで、を繰り返して合計と件数を求めていきます。

ループ内で求めた合計と件数を利用して平均を求めます。

平均を印字します。